

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内の患者発生状況

マダニ類



マダニの生活環

- ・多くのマダニは、幼ダニ、若ダニ、成ダニの3ステージ
- ・各ステージで1回吸血



患者の発生状況(4月24日時点)

- ・13名(うち死亡8名)
- ・発生年: H17年～現在
- ・年齢: 50～80歳代
(中央値60歳代)
- ・男女比: ほぼ1:1
- ・発症時期: 春～晩秋
- ・マダニ刺咬歴: 5名で確認
- ・主な症状・所見: 発熱、消化器症状、血小板減少、白血球減少、血清酵素上昇など

マダニ類(例:フタトゲチマダニ)



国内の患者の発生状況

発生年	自治体	患者概要
平成17年	長崎県	60代男性(死亡)
	長崎県	50代男性(回復)
平成22年	佐賀県	80代男性(回復)
平成24年	高知県	80代女性(回復)
	佐賀県	60代男性(死亡)
	広島県	成人男性(死亡)
	山口県	成人女性(死亡)
	愛媛県	成人男性(死亡)
	宮崎県	成人男性(死亡)
	愛媛県	60代女性(回復)
	平成25年	鹿児島県
平成25年	山口県	60代女性(死亡)
	山口県	60代女性(回復傾向)

遡り調査

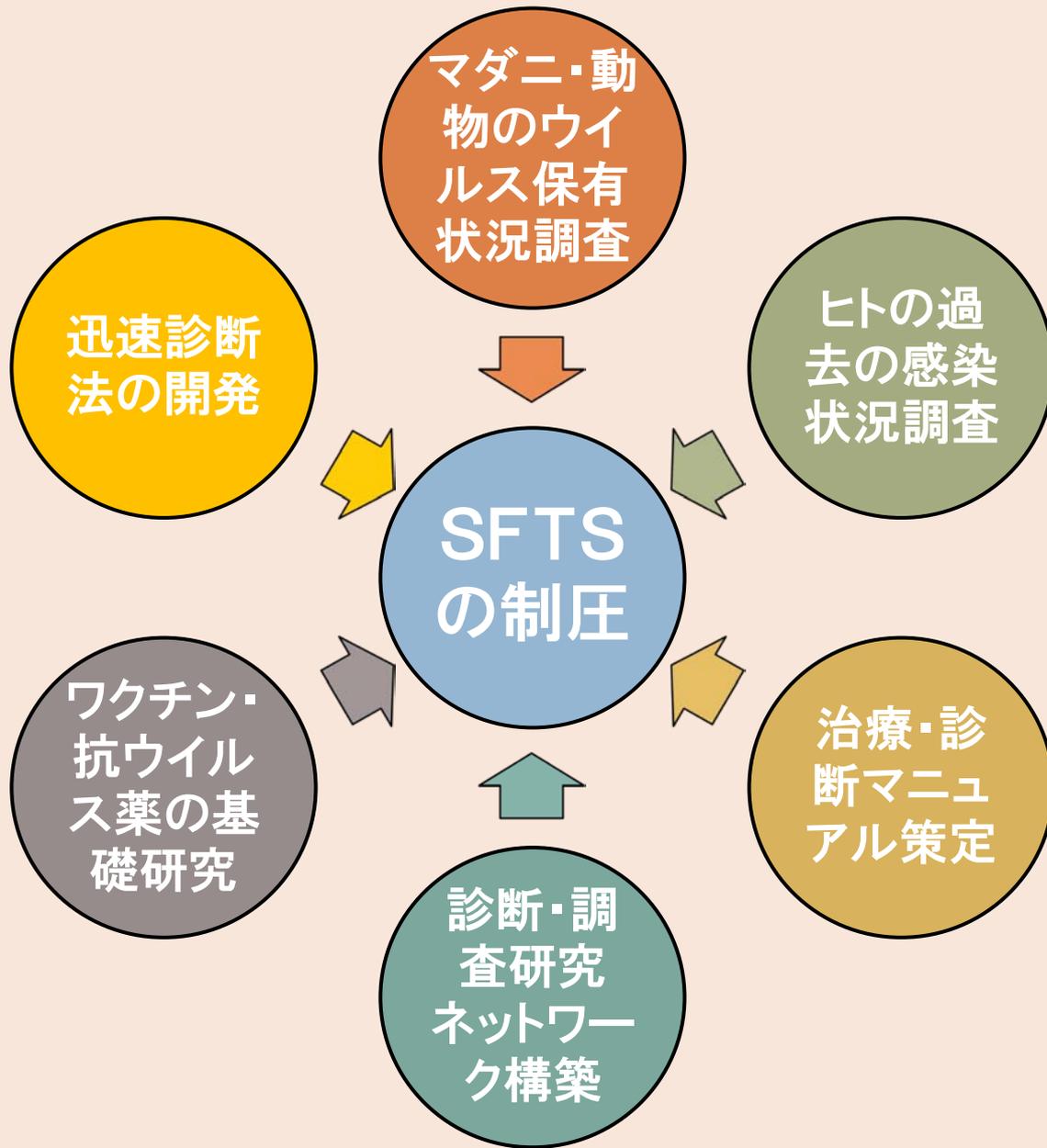
*国内初の確認症例→

今春以降

マダニが媒介する感染症にかからないためには...

- マダニに刺されない！
- 草むらや藪など、マダニが多く生息する場所での活動時、
 - 長袖・長ズボン・足を完全に覆う靴・帽子・手袋を着用、首筋にはタオルを巻く、など肌の露出を少なくする
 - 服は明るい色のものや化学繊維素材のものがお薦め
 - 虫除け剤も補助的な効果
 - 屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認（特に、腋の下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭髪部などが確認ポイント）

SFTSの実態解明に関する総合的研究



研究代表者

倉田毅氏(元国立感染症研究所長)

分担研究者

感染研、長崎大、北海道大、国立国際医療研究センター等から専門家が参加。自治体や医療機関とも連携。

期間

H25年から3年間